



DBKだより

第19号
2017年8月15日
ドン・ボスコ基金

Strenna 2017 サレジオ家族 年間目標

We are
FAMILY!

Every home,
a school of Life and Love

わたしたちは家族!
“家庭”は命と愛の学び舎

サレジオ会総長
アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

Strenna
R.M.



トピック

モンゴル 青少年への同伴と全人教育／ベトナム 障がいのある人の家ドン・ボスコ・シェルター／
インド 貧しい青少年の学校と宣教センター／日本 慈しみの家ハッピーハウス／
コンゴ民主共和国 職業訓練校ドン・ボスコ・マッシーナ・カレッジ／2016年度決算報告

夏の「DBKだより」をお届けします

いつもDBK[ドン・ボスコ基金]をご支援くださり有難うございます。2008年7月の創刊号から年2回「DBKだより」を発行し続け、今回で19号をお届けできますのも、恩人の皆様から寛大なご支援とお祈りのお陰です。心から感謝いたします。

助けを必要とする国内外の人びとのために

ご存じのように、近年は日本社会でも貧困・格差が深刻な問題となっています。DBKも国内の様々な支援グループから援助を依頼されるようになったことを受け、これまで「発展途上国の援助」に限定していた規約を2016年6月1日に改正し、「不特定の善意の人々から寄せられた寄付金を、援助を必要とする青少年を保護養成するプロジェクトを支援することを目的とする」ことになりました。これにより発展途上国に加え、日本国内での支援も始まりましたので、本誌には国内外の活動報告を掲載しています。

スタッフの活動紹介

DBKの責任者はサレジオ会日本管区長が務めますが、頼もしいスタッフに支えられています。事務局長はサレジオ会修道士の須藤哲史先生、ボランティアと

してサレジオ家族のメンバー(サレジアニ・コオペレーター、ADMA扶助者聖マリアの会、サレジオ同窓会連合、保護者など)が奉仕しています。ミーティングは月に一度、東京・四谷にあるサレジオ会日本管区本部に集まり、最初に恩人の皆様とご家族のため、また助けを必要とする方々のために、カトリック教会で最も大切な祈りであるミサを聖堂で捧げた後、会議を行います。このほかスタッフは毎週交代でDBKの事務室で作業しています。皆さんから頂く貴重なご支援を大切に、目的地に確実に届けられるように努めています。

恩人の皆様と共に

サレジオ家族の創立者ドン・ボスコは、活動を支える恩人の方々に常に感謝し、「家族」として共に歩みました。DBKをご支援くださる恩人の皆様、これからも皆様の助けをどうぞよろしくお願い致します。私たちが大きな「家族」として共に祈り、働き、助けを必要とする「家族」と交わることができますように。

2017年8月

DBK[ドン・ボスコ基金] 代表 山野内 倫昭^{みちあき}神父

モンゴル・ウランバートル 青少年への同伴と 全人教育



シスター小島とモンゴルの子どもたち

モンゴル国は1992年の民主化を機にバチカンと国交を樹立、カトリック教会の宣教活動を(慈善事業として)正式に許可し、淳心会の司祭3人がパイオニアとして派遣されました。サレジオ会は2000年にベトナム管区所属で、サレジアン・シスターズは2017年に韓国管区所属でモンゴル宣教に乗り出しました。サレジオ会はウランバートルで工業高校の運営と小教区の担当、ダルハンで小教区と青少年センターと出版事業をしています。サレジアン・シスターズは、ウランバートルのオルビトで幼稚園と小学校(今のところ3年生まで)、小さな図書館とオラトリオ(青少年司牧の場)を主な活動としています。

宣教活動が政府から正式に許可されたとはいえ、教会外での宣教活動は禁じられ、外国人への待遇は厳しくなっています。人びとは宗教に対して嫌悪感や恐れを抱いているように見受けられ、道を歩いていると白い目で見られることがあります。私たち宣教師に求められているのは、人びと、とくにモンゴルの未来を担う青少年と関わり、同伴することを通して憐れみ深い神、救い主イエスを伝え、永遠の幸福と生命を感じ理解してもらうことです。どのように地域の人びとの求めに応え、子どもたちに全人教育を行うかを他の5人のシスターと共に試行錯誤しています。私たちにとって大きな挑戦であり、エネルギー源でもあります。

皆様から頂いた献金は学校の修理とオラトリオ、図書館の経費のために使わせていただきます。本当に、ありがとうございます！

(サレジアン・シスターズ宣教師 シスター小島華子)

ベトナム・タイビン 障がいのある人の家 ドン・ボスコ・シェルター



ドン・ボスコ・シェルターでアクセサリーの製作

DBK協力者の皆様、温かい支援を頂き心から感謝します。ベトナム北部のタイビン省にあるドン・ボスコ・シェルター(生活の場・家)は、生まれつき障がいのある方と事故や病気などで障がい者となり歩んでいる方が利用する施設です。日本のような福祉支援がないため、行き場を失い社会から排除されている方々も少なくありません。彼らがこのシェルターに来て、自分のできる作業によって手に職をもち、働くことで誰かのために生きる喜びを感じてくれるよう願っています。

今、必要な物は「車椅子」です。足に障がいのある人は、手作業の仕事を得て働いています。ビーズを使ってブレスレットなどアクセサリーを作る仕事をしている人もいます。しかし、足が不自由なのでトイレに行くことや少しの移動さえも誰かの手を借りなければならず、いつも周りの人に対して自分の存在を申し訳ないと感じてしまう状況に陥ってしまいます。そんな彼らのために車椅子があれば、周りに遠慮せず自分でできることが増えると思います。日本とは違い、外に出ると舗装されていない道もあるのですが、屋内での移動では車椅子があることで自由に移動でき、私たちが当たり前にしていることさえも、彼らはできる喜びを感じられます。どうか彼らのために温かいご支援をお願いいたします。

ご復活されたキリストが皆様おひとりおひとりの内にキリストの光となって力強く歩まれますように。心を込めて……。

(サレジオ会 春山ミカエルラップ神父)

インド・コルカタ管区 貧しい青少年の学校と 宣教センター



屋根のないダイヤモンド・ハーバー宣教センター

インド・コルカタ管区の活動に日本の皆様が協力してくださるとのお手紙に、心より感謝します。

インドには現在11管区があり、コルカタ管区は最も古い管区です。インドの公立学校は、地元の特権階級の青少年に英語による高等教育を行うことを主眼としており、貧しい子どもや若者が直面する現代社会の困難を乗り越える助けにはあまり貢献していません。私たちサレジオ会の学校は、地元の言葉を使い、私たちの使命である貧しく恵まれない子どもたちのために教育を行う重要な役割を果たしています。

日本の皆様からの支援は次の2つのプロジェクトに役立たせていただきます。コルカタから北へ120kmの所に、私たちの最も古い宣教拠点クリシュナガール宣教センターがあり、地元の言葉を使って教育する中学校と農場、技術学校、宿舎があります。プロジェクトの1つは、その建物の改装、家具の購入、小さな子ども用の公園の造成、学校の事務所開設を早急に達成することです。また、ベンガル湾沿いには最も貧しい人びとが多く暮らしており、私たちは10年ほど前からそこでダイヤモンド・ハーバー宣教センターを始め、たくさんの人びとが集まっています。プロジェクトの2つ目は、この地域にコミュニティーセンターを建設し、日曜日には人びとを集めてミサをささげ、平日には教育を受けていない大人のための成人教育の場として、また村の子どもたちの教育センターとして活用します。

(サレジオ会コルカタ管区長 ニルモル・ゴメス神父)

日本・東京 慈しみの家 「ハッピーハウス」 食糧支援のお願い



ハッピーハウスで過ごす子どもとボランティアの若者たち

今日の日本社会には「貧困家庭の子どもたち」の中に「居場所」が無く、「食生活」においても発育年齢に必要な食事が十分に摂れない状況の子どもたちがいます。慈しみの家(通称：ハッピーハウス)は、このような子どもたちや若者を支えるために、青少年と若者たちが心身ともに安心して、ゆっくり自由に過ごすことができる場所を提供し、話を聞く・受け止める・遊び・語り合い・食事作り・食事を一緒にすることを活動内容に、若者が活動の中心となることを目標として設立しました。現在、小学3年生の女子2人、小学5年生の男子1人、小学6年生の男子1人が参加しています。離婚家庭の子ども、母子家庭の子ども、子育てで忙しい母親のストレスを少しでも助けることでハッピーハウスを利用している方々がいらっしゃいます。毎週火曜と木曜の2日間ですが、遊び、宿題をさせ、夕食準備をし、一緒に夕食をいただきます。毎週、子どもと母親、ボランティアスタッフを入れて、10～12人の食事作りをしています。DBK協力者の皆様からの支援金は、この食事の材料費に使わせていただきます。成長盛りの子どもの栄養と健康のために、皆様の支援を活用させていただきます。

(サレジオ会・シスターズ シスター稲川孝子)

コンゴ民主共和国・キンシャサ 職業訓練校ドン・ボスコ・マッシーナ・カレッジ



1,020万人が住み、なお人口増加が著しいコンゴ民主共和国の首都キンシャサは、人的資源の可能性を秘めています。しかし、この国の社会が急速な変化と不安定化を遂げる中で、多くの子どもたちは、学校教育を受けることなく、家族から見捨てられてしまうことも多々あります。キンシャサ市は専門学校、特に印刷学校を必要としています。なぜなら、国にとって政治的にも大切な資産である印刷の技術者が不足しており、この分野は依然として、多くを国外の民間企業に依存しているからです。サレジオ会は、この国のこうしたニーズに応えるために、恵まれない青少年にとって不可欠な職業技術訓練教育に力を入れることにしたのです。2003年に設立され、非営利団体として組織されたドン・ボスコ・マッシーナ・カレッジは、経営幹部の養成、エレクトロニクスおよび印刷業における職業訓練のために、周辺地域の約2,100人の若い学生を受け入れました。特に印刷コースは、若い人たちに特に人気があり、我が国の需要にも合致しています。しかし、学習機材の不足、経済危機、現在の政治状況を踏まえると、私たちが目標達成のためにこれらの事業を継続することは非常に困難な状況です。

我が国の将来を担う青少年の職業訓練の質を向上させるために、学習機材であるコンピュータ搭載の新型の印刷機があれば、私たちは間違いなくこのプロジェクトを継続することができます。印刷設備の入れ替えのために、皆様の資金援助と支援をお願い致します。

(サレジオ会 中央アフリカ管区 ギスライン・ンキエレ神父)

ドン・ボスコ基金 2016年度決算報告書

(2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位: 円)

収入の部			支出の部		
寄付希望先	金額	備考	寄付先	金額	備考
ボリビア	2,421,897		ボリビア (倉橋神父)	2,430,000	
ソロモン・パプアニューギニア	248,758		ソロモン	1,000,000	*6
南スーダン	264,617		南スーダン	1,000,000	*3
Kiitos (日本)	250,637		Kiitos (日本)	210,000	
ネパール	3,870		ネパール	500,000	*4
熊本地震被災地	678,936	*1	熊本地震被災地	500,000	*1
別府教会	1,920	*1			
エクアドル	205,710		エクアドル	250,000	
ハイチ	3,920		ハイチ	200,000	*4
東ティモール	51,000		東ティモール	1,000,000	
バングラデシュ	1,000		バングラデシュ	200,000	
モンゴル	251,550		モンゴル	1,000,000	*5
日本国内	72,010		多文化共生センター (日本)	100,000	
シリア	19,920		シリア	200,000	*4
ベトナム	50,000		ベトナム	200,000	
任意	9,277,061		インド・コルカタ	1,000,000	
			コンゴ民主共和国・キンシャサ	1,000,000	
			ボリビア (Sr. 竹山)	1,000,000	*5
			ハッピーハウス (日本)	100,000	*5
			ウガンダ	200,000	
イタリア・カメリーノ地震被災地	238,206		イタリア・カメリーノ地震被災地	250,000	*7
ペルー	5,840	*2			
シエラレオネ	8,840	*2			
			広報関係	405,540	*8
受取利息	2		寄付金送金手数料	59,780	
			事務経費	19,769	
収入小計	14,055,694		支出小計	12,825,089	
前年度繰越金	325,738		次年度繰越金	1,556,343	
収入の部 合計	14,381,432		支出の部 合計	14,381,432	

** 収入の部は2016年4月1日から2017年3月31日までに受け入れた寄付金の金額の総計となっています。
 ** 支出の部は2017年3月31日までの受入資金を分配して送金しています。
 *1 熊本支援については寄付収入よりも支出額が少ないですが、前年度に任意の寄付をもって収入額を上回る額を送金しています。
 *2 ペルーとシエラレオネについては寄付収入少額のため、次年度以降に寄付送金を検討します。
 *3 南スーダンへの寄付はイエスのカリタス修道会日本管区本部に送金しました。
 *4 ネパール、ハイチ、シリアについてはサレジオ会総本部を経由して送金を依頼しました。
 *5 モンゴル、ボリビア (Sr. 竹山)、ハッピーハウスへはサレジオ・シスターズ日本管区本部へ送金しました。
 *6 ソロモン諸島についてはソロモン訪問のサレジオ会員が現地へ持参しました。
 *7 イタリア・カメリーノについてはイタリア訪問のサレジオ会員が現地へ持参しました。
 *8 「DBKだより」No.17・18の印刷代と送料、封筒代、払込票付きチラシ作成代等を含みます。

DBKだより 第19号

2017年8月15日

発行人 山野内倫昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

サレジオ会日本管区本部内

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

Email: dbkinfo@salesians.jp

http://salesians.jp/about/dbk



DBK[ドン・ボスコ基金]は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号 00190-5-292253

加入者名 ドン・ボスコ基金

寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(☑チェックマーク)をご記入ください。



DBKのスタッフミーティングで